

■ グローバル・スタートアップ・キャンパス(GSUC)構想について

<背景>

感染症や気候変動などグローバルに取り組むべき課題の解決を通して、持続可能な経済社会システムを地球規模で構築することが急務となっており。コロナ禍でワクチンが切り札になったように、科学技術・イノベーションが鍵となっている。また、日本の経済活性化を加速するためにも、日本の大学・研究機関の人材・研究シーズのグローバル展開の加速が急務である。

<構想の概要>

上記の課題に取り組むため、日本政府は、2022年8月、内閣官房に「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想推進室」を新設。

グローバルなイノベーションエコシステムのアジアのハブとして、ディープテック分野の研究機能とインキュベーション機能を兼ね備え、スタートアップ創出などの手法を通して様々な社会的インパクトをグローバルに生み続けることを使命とする研究イノベーション拠点「グローバル・スタートアップ・キャンパス」を**東京都心(目黒・渋谷)に創設する**。

この研究イノベーション拠点が、各地方のエコシステムとも連携することで、世界標準のビジネスを日本全体で生み出していくエコシステムの形成を促進する。

日本政府は、東京でのグローバル・スタートアップ・キャンパス創設に向け、米国のリーディング大学であるマサチューセッツ工科大学(MIT)と密に連携し、フィージビリティ・スタディを実施していく。

<研究イノベーション拠点の特色>

この拠点は、すべての活動が英語で行われる完全グローバルな場、世界中の優秀な頭脳、特に若者がここに飛び込んで切磋琢磨したいと強く思う場、多くの外国人や女性研究者・起業家なども参加する多様性とエネルギーにあふれる場となることを目指す。

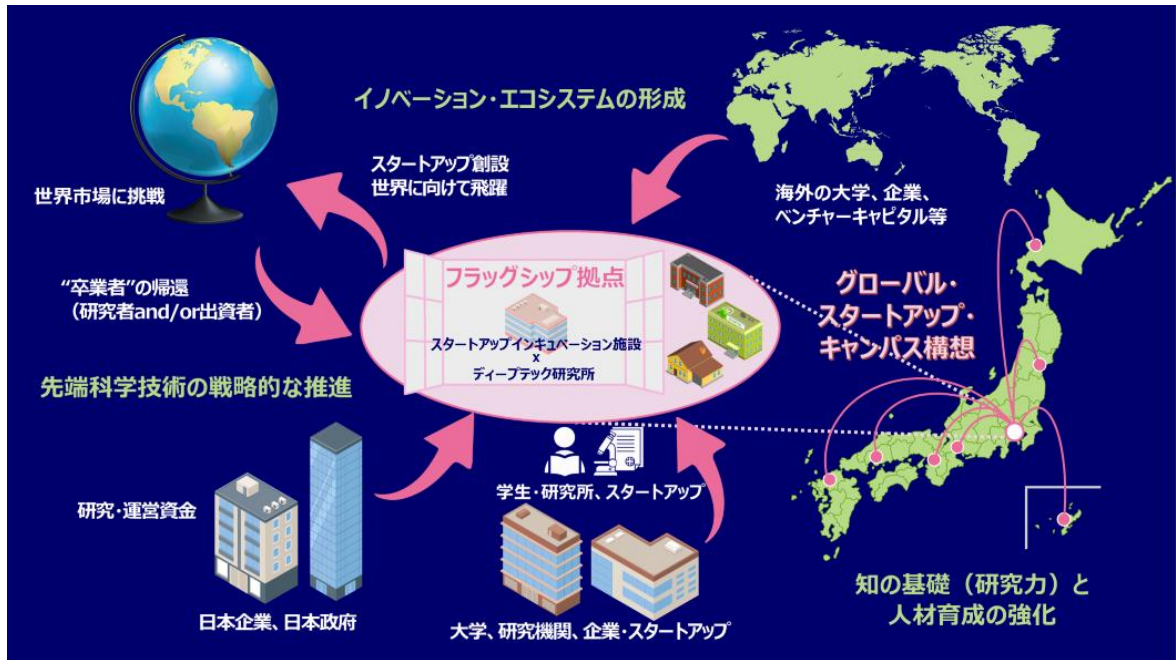
<関連予算>

- 令和4年度第2次補正予算 9億円(内閣府計上)

GSUC構想での連携に向けたフィージビリティスタディ(FS)など具体化に向けた海外大学との調整業務を行うとともに、GSUCの創設に向け、必要となる建物の検討等を実施。

- 令和4年度第2次補正予算 66億円(文部科学省計上)

GSUCの建物の完成を待たず、GSUCでの連携が想定される海外大学等との国際共同研究を先行して実施。



<世界に開かれ、認知された”窓”としての役割を担う中核拠点(イメージ)>